

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 井手町立多賀小学校 】

1 実践テーマ	【Ⅲ・Ⅴ】
2 実施対象者	多賀小学校全児童；全8学級・87名 ※取組によっては、学年を限定して実施
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（体育科・総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピアンとの出会いの中で、運動への関心を高め、『さあやってみよう』という「スポーツごころ」を育てるとともに、指導を受けたことをはげみに、自身の記録に挑戦することによって、自信や希望を持って何事にもチャレンジする精神を育てる。 ・パラ選手との触れ合いやパラスポーツの体験を通して、障がいのある方の苦勞や努力について知り、パラスポーツへの理解を深める。 ・オリンピック・パラリンピックに関する掲示物を通じて、その意義や歴史について知り、オリンピックへの興味・スポーツへの関心を高める。 ・オリンピック・パラリンピックに関する図書を集め、コーナーを作って紹介することで、児童の関心を高め、調べ学習等にも活用させる。
5 取組内容	<p>「オリンピック・パラリンピアンとの交流」</p> <p>(1) 井手町小学生陸上交歓記録会での交流（5・6年生 33名）</p> <p>①事前指導：佐藤選手の活躍を収めたDVDの活用</p> <p>②オリンピックとの出会い（陸上交歓記録会当日／10月21日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動、実技指導＜短距離走のスタート等＞





- (2) パラリンピアン講演会 (全校児童 87 名 / 12 月 18 日)
 <講師; 根木慎志さん / シドニー五輪・車いすバスケットボール日本代表>
- ・パラリンピックの意義やその素晴らしさについて、夢に向かって頑張ることや何事にも一生懸命に取り組むことの大切さについての講話
 - ・車いすバスケットの実技を披露



- (3) ボッチャ体験 (6 年生 12 名 / 12 月 12 日)
 <講師; 片岡正教さん / ボッチャ協会理事>
- ・障がい者も健常者も一緒に楽しめるボッチャについての講話とボッチャの体験 (ルール指導・練習・試合)



「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント」

- (4) オリ・パラ掲示板
- ・オリンピック・パラリンピックに関わる情報を児童に広めるための掲示板を設置<毎年コーナーを増設>
 - 「開催地の変遷」「各国のメダル獲得数」
 - 「東京五輪の新種目」「パラリンピックの競技紹介」
 - 「日本選手が活躍する、最新のスポーツ記事」等

	 <p>(5) オリンピック関連図書コーナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックに関連する図書を集めて、図書館にコーナーを設置。 ・図書委員会でPOPを作るなどし、全校児童に紹介。 ・長期休みの自由研究など、調べ学習での活用を呼びかけ。
6主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・事後の児童の様子から、「有名な選手と一緒に走れてうれしかった」「教えてもらったことを意識してやったら、100m走のスタートがうまくできた」(1)「目標を持って努力することが大切だと思った」「車いすに乗りながら、ロングシュートを決めて本当にすごい」「東京パラリンピックが楽しみ。日本の選手を応援したい」(2)「障がいのある方々とボッチャで勝負してみたい」(3)など様々な感想が聞かれ、交流の成果がみられた。 ・掲示板や図書を見て、「東京五輪で、メダルがたくさん取れるように日本にがんばってほしい」「ぼくもいつかオリンピックに出てメダルを取りたい」など、様々な感想が寄せられるなど、児童の興味・関心を高めることができた。(4)(5)
7実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピアンとの出会いを効果的にするため、事前指導を実施した。(1)(2) ・指導してもらったトレーニングを、体育科の指導に取り入れた。(1) ・パラリンピアンとの交流及びパラスポーツの体験時期を、校内の障がい者理解教育月間に合わせて実施した。(2)(3) ・児童が、東京五輪を身近なものとして捉えられるように、掲示板のテーマの設定や、図書の選定を行った。(4)(5)
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・講師として来てもらうオリンピックの選定や、日程調整等の事務手続きが大変である。 ・単に掲示物や図書を見るだけでなく、児童が自らオリンピック・パラリンピックについて調べたいような仕掛け等、能動的な関わりを増やせるよう工夫していきたい。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のスポーツへの関心や運動への意欲、障がい者スポーツへの理解を高める上で、とても効果的な取組であり、来年度以降も継続していきたい。 ・(4)については、5年目の取組となっており、継続してきた成果が表れている。今後も2020年まで、内容を工夫しながら続けていきたい。